

女川町復興支援者各位

謹啓 新年あけましておめでとうございます。

貴殿におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、平成23年3月11日に発生した大地震は、直後に襲来した巨大津波と相まって、本町を含む三陸沿岸地域を中心にこれまで経験したことのない未曾有の大災害をもたらしました。

本町におきましても、多くの町民の尊い生命と財産が一瞬のうちに奪い去られるとともに、多くの公共施設や基幹産業である水産業及び観光関連施設等に甚大な被害を受けました。

現在、日々復旧復興に向けて取り組んでいるところであり、一日でも早く「とりもどそう笑顔あふれる女川町」を実現するため、町民一丸となって努力しているところであります。

この度の東日本大震災に際して御厚志いただきました復興支援金につきましては、被災者支援をはじめ、復興事業推進のため有効に活用させていただいております。

本町の現況としましては、災害公営住宅の全戸完成に向け努力しているところであり、自立再建による住宅の建築も進んでおり、新たな地区での住民によるコミュニティづくりの段階へと進んでおります。

また、新女川駅(女川温泉「ゆぼっぼ」併設)から女川湾に向かって整備したテナント型商業施設「シーパルピア女川」や賑わいの拠点である「まちなか交流館」と観光物産施設「地元市場ハマテラス」、更に地元民間企業のインフラも整備され、女川駅前商業エリアが一定の完成となったことにより、町内外の利用客も増え、活気が戻りつつあるところであります。

被災各地で復興の槌音が響くなか、本町は平成28年度から本格復興期(H28～H30)として最終段階に入っており、新女川魚市場も全面供用開始され、女川港の復旧や民間水産加工場の再建といった本町産業の基盤である水産関連施設整備に向けた事業など、復興への歩みが着実に進められております。

無事復興を完了させるべく、皆様からの温かい御支援と励ましを支えに頑張りたいと存じますので、今後ともお力添えを賜りますようよろしくお願い申し上げます。

この度の御支援、御協力にあらためて感謝申し上げますとともに、皆様の益々の御多幸と御繁栄をお祈り申し上げ、略儀ながら書中をもちまして御礼の挨拶とさせていただきます。

謹白

平成30年1月

宮城県女川町長 須田 善明

復興していく町の鼓動が聞こえますか。

おな が わ

女川町



◀町将来構想イメージ▶

JR 女川駅を中心に、にぎわい拠点となる商業エリア、公共公益施設を集めたシビックコア、地域医療センター、町のへそとなる女川小・中学校、海と親しめる観光交流エリアを集め、暮らしやすく便利なまちを計画しています。幅員 15m の緑豊かな歩行者プロムナードがまっすぐに伸び、駅に隣接した高台には役場・生涯学習センター・子育て支援センター・保健センターが合築され、新しい高台の住宅地には海が見える軸線をつくり、住みたい・訪れたい・自慢したい風景のあるまちを目指していきます。

女川駅周辺MAP

(平成 29 年 7 月現在)

※記載されている施設等には現在検討中のものもあり、変更されることがあります。



yupo'po

女川温泉ゆほっぽ



JR 女川駅と温泉温浴施設ゆほっぽが一体となった施設で、ウミネコが羽ばたく様子をイメージした曲線を描く大屋根が特徴です。世界的建築家の坂茂さんが設計し、以前より 200 ㎝内陸側へ移動、7～9 ㎝嵩上げされたところに建ちます。海へと続くプロムナードと併せ、新しいまちのシンボルとなります。建物内壁面には、日本画家の千住博さんと水戸岡鋭治さんをアートディレクターに、公募で集まった 917 点の花の絵と千住さんの絵を合わせた 1 枚の巨大なタイルアートが描かれています。

- 営業時間 午前 9 時～午後 9 時 (最終受付は午後 8 時 30 分)
- 休館日 第 3 水曜日
- 入浴料金 大人 (12 歳以上) 500 円、小人 (6 歳以上 12 歳未満) 300 円

女川町まちなか交流館

「居心地のよい、まちの居間となる、賑わい交流拠点」をコンセプトに、町民や来町者が気軽に立ち寄ることのできる施設です。開放感のあるロビーや多人数収容のホール、会議室・多目的室、ドラムセットを完備した本格的な音楽スタジオ、調理室、多目的室、キッズコーナー、商工会で構成され、各世代が気軽に訪れることのできる施設です。

整備主体：女川町



テナント型商業施設

シーバルピア女川



プロムナードに隣接するテナント型の商業施設です。ミニスーパーや小売店、女川の味を堪能できる飲食店、魅力的な制作販売などさまざまな業種の 27 店舗が出店します。日用品・工房・飲食エリアから構成され、町民の日常生活をサポートする商業機能だけでなく、来町者・観光客の需要に対応した機能も合わせ持つ場所となります。

整備主体：女川みらい創造(株)

シーバルピア女川

地元市場 ハマテラス



地域住民や観光客向けに、水産物を中心とした特産品販売、旬の新鮮な魚介・スイーツ等の飲食メニューやオーガニック石けんの販売・製作体験などを提供するテナント型観光物産施設です。レンガみちに隣接し、国道からのアクセス性にも優れ、特に観光客の玄関施設となります。「海」が基本コンセプトの 8 店舗が出店しています。

整備主体：女川みらい創造(株)

水産業体験館「あがいんステーション」

旧 JR 女川駅の外観を復元し、過去と未来を繋ぐ施設としてオープンしました。町の基幹産業である水産業を復活させるため、商品の魅力を高めるブランディング活動や水産業等を肌で感じる体験の創出を図り、施設内には水産業体験や調理実習のプログラムを行う「あがいんキッチン」と、女川の水産加工品や全国の美味しいものを販売する「あがいんプラザ」が設けられています。

整備主体：復幸まちづくり女川合同会社



女川フューチャーセンター-Camass (カマス)

町内外の人々が集まり、新しい交流をすることで「新しい仕組み」を生み出し、町の活性化の一助になる場所となることを目的とした施設です。町の課題や目指す未来について、自分たちができる事などをテーマに議論し考える「フューチャーセッション」や各種イベントが開催されています。コワーキングスペースや会議室などもあり、町で起業・創業する方たちのサポート役として機能するほか、町民の集いの場としても利用されています。



整備主体：NPO 法人アスヘノキボウ